





夢中菴笠公相圖
子興寫之

廣英文庫

序

むし一芭蕉の存産とては武らとてはまの秋
風吹しる白河の関よりとては書畫れまひり
あきと次賀川の秋は何れも等躬とてはてははく
鑑然とてははくはくはくはくはくはくはくはく
の存産とてはくはくはくはくはくはくはくはく
被函柄の只なはくはくはくはくはくはくはくはく
あひあきとてはくはくはくはくはくはくはくはく
包り然とてはくはくはくはくはくはくはくはく

伯示とてはくはくはくはくはくはくはくはく
成へ一安きみらはくはくはくはくはくはくはくはく
あふの勝八十年乃とてはくはくはくはくはくはく
とてはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
ういつあきとてはくはくはくはくはくはくはくはく
雲中菴菴とてはくはくはくはくはくはくはくはく

各永三甲年初冬

朝の粟〜雲をて西風のまほ招からん
車と各永二色のと〜蕉翁八十とせれ
秋と逢記家の梢をれと迎実のふ時を
正志と〜是と焚く碑前よりさふ
と紫の林永くふちりり秋声と〜ふ
う〜あんぬ

昔九月十日

栗父坊

表八句

桃祖

その粟子煙を流ても向りり

十一日乃月子 きの〜

五考

泪傳ふ免のぬきう〜らん

朝栗

鞠の弱き〜子や〜

活明

あらしらとつわな〜りし小風呂敷

旧産

や〜〜〜の〜をよからきて

互曉

き〜ら白へ牡丹菊葉あめると

夫前

溪の赤砂と書あけの〜

之世

芭蕉翁追悼

遠も死ぬるなりく難波の枯野に
粟付く松風とくく時をくぬ

等躬 晋流

東門可伸ハ粟の木のとくん
庭を移り竹へく行基井の
いへハ西より流ある木をりし
杖も柱も月ひきひくをくぬ
函物ありあり有野をく延陀の
松云といとたのく

うき世や目たぬむをぬれ粟
稀り粟のくくぬ家

芭蕉 粟秋

7

切崩山の井に名はくくくきて
時流くくくく石の桐く
把柄くくく月乃粟くく
秋くくく顔の縁をくく
梓弓矢のぬれ家とかくく
秋書とくく秋曉のく
松齒榮り吹よりりくく
酒の遠眼とくくく
聲入と誰りくくく

等躬 芳良 等雲 次竿 素葉 芭蕉 粟秋 等躬 芳良

さかしく遠きる傾城のみ

等書

貧乏と神子恨取つゝまよ

次竿

月のひかりをよるる

素榮

ひとりしと新約のしる

等躬

笠乃踏をさる

粟女

梅子出く初瀬や若狭をむれ付

芭蕉

うきとや川谷子証鼓おく

若良

ナラ

あふるるのまをさるる

素榮

あやのさしぬまう

等躬

まゝ難をいり

次竿

うゝえー琴丸様や

芭蕉

うゝ森のまをさるる

次竿

朴とうり

等書

り信子之社の徳をい

若良

兼合まをさるる

素榮

伽子ある信野の餅をさるる

等躬

四又日月をさるる

粟女

徒子ゆゑ甲斐ふ

等書

ウ

藤の言経る紫せぬ宮 芳良

冠をとほきをうつりよほき 芭蕉

うしろり清く文を志す 雪舟

志をいせりくほきて懐い頼 素宗

なほとせしむる一思ぬの及 栗女

入口と四門す法のとも如乃山 芳良

法をぬとむむ教道生の恒 雪舟

三日月の美やあふり一雲の影 芳良

素宗の関れを
あふり

そとらりあうてぬんどの陰 文考

う川秋や唐紙けを風乃音 枕隠

す麦川のおと文うの舟自いう如 嵐肝

り川の名よきてあふりよ小田の石 吏登

痛の歌をあふむやうくおれ月 麦林

各牌歌

塚ゆりて云の紫草とむの秋 治明

人もあふ世とはあふりなり新れ粟 旧菴

竹の葉のりのおりて秋淋し
 つも——此夢やま向の程ある
 鶴のやまも月日とも向く
 咲粟の朝や暮り程も向か
 柳紫せぬまうりあけ——朝の粟
 うさ声塚や清りり粟は秋
 流今もふくく月乃程
 芭蕉志やまうさ大津の人通
 水才
 之屯
 る曉
 柳二
 夫氣
 朝粟
 る考
 古鏡

ち世城志や枯枝や雪風の音 日 吾石
 幻の世や繪像の 菰 草 白川 春水
 ち世城志や火鉢に掃除梅の世 柳祖

知聞 名録

ち海くと富士うえりりも為 白鳥 葵太
 うさぬうた水やあゆきんほの月 吐月
 藤や新さくもとの水あは 雙羽
 菊はてはらうららぬ松の声 文来
 ち菊や生てのほれサ日らさ 黙哉

去はりし川をて葉の枯葉外

系 蝶足

人声の遠く水や山とくく

日 徳九

あふ合て味暗はくきや九月を

大坂 旧園

ふし急とぬましくきる雲外

日 泉明

中くく平あしくとくさ秋の音

智列 橋良

溪火の清くくき水や萩れ風

日 左蝶

勝より上りくあり鶯の声

住列 兼和

うきくく声や煙の如くけ

徳列 養人

きりくくさ家守時と里急

城中七人 麻父

むきくくとる並てけ清水外

加列 素園

雲の枝とくあさなぬのち

岩列 丑岩

月と空くく剛く為さぬあふ外

日 淳東

馬士の腰控り枯野外

尾列 也右

おられ子と指さる智急外山堂

日 木免

蛇の夜うけく落のくく外

日 曉菴

くくくくあふはははは紫外

日 卷阿

くくくくくくくくくく大根引

日 淳木

萬一お香の林よ 蟻たうく

日 予尾

物〜と 藤之癖を〜て 谷鉄の世

仙臺 芳角

又月とて 丹日 鳩うを 山内 有 ね

日 祇川

名月や ぬい〜と せ〜り 柳 ね ね

日 文芝

ほ〜と〜と 小多 浮きう〜ん ね

日 菊史

名月の中〜う〜出〜る 花 鳥

日 田山

果〜と ぶ〜海〜 ね〜り ぬ〜め ね

白石 表羅

娘〜と 名〜の〜と〜 ぶ〜り ぶ〜り ぶ〜り ぶ〜り

福橋 東吳

う〜水と 汲〜る 庭〜る ぬ〜ん ね

日 松祖

乃 同〜と 名〜の ぶ〜り ぬ〜ん ね

八丁目 菊原

葉〜り ぶ〜り ぬ〜ん 柳 ぶ 柳 ね

長沼 以静

葉お〜と 葉〜り ね〜と 葉〜の 庭

次加川 晋等

風〜り ぶ〜り せ〜り ね〜り 柳 ね

日 晋柳

葉吹や 葉〜る ね〜り 水の いろ

長沼 竹里

福書と ね〜り ね〜り ね〜り ね〜り

金澤 可也

河〜り や 池 乃 あり〜と 葉門

日 巨石

名〜と ね〜り ね〜り ね〜り ね〜り

三美 三使

物、葉子とあふ、晴々り朝の露

日

掬明

倒、うねる平塔染を記に枯れゆく

日

英菊

炭、うねるや雲、うねるの白くは方より

日

冬物

庁、くく水をかき、北てう川氷

日

柳骨

白、雲とそく、そくやうも鶴、花

日

鱗子

不、行也と申りさく、くく秋

日

紫卜

若、行く、てたの葉や、葉さく

日

吟雅

あ、きぬ、の秋とむ、くく枯れ

日

魯仲

尺、多き、くく、これ、は、ま、く、物、く、

日

兔友

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

赤水

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

系水

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

可立

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

冬花

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

紫室

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

馬忌

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

其白

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

羽冥

あ、き、く、く、く、く、く、く、く、

日

露秀

下弦をくもれおと静しきまゝ
りあくと借ふたあゝは露月
と川音や卯のまれ垣のぬ咲
垣歌子と所いそぢやまの月
二三里の居をうとそぢうけ
り結をくもまゝなりはうとそぢ
うとくうと水いそぢうけりそぢ
まもし源流一葉程のあぢい咲

四巻
白萍
大嵐
水木
楚琴
會志
新栗
面曉

着へはくあゝあゝと静寂か
一あゝ水音る様や天は居

之世
晋風

あぢうけりそぢ細一居のし息
ゆれ蚊のくもゝとぢう音のあ
あぢうせとぢけりあや瓜富
ひそぢ屋のくもゝとぢおぢ成

晋取
周二
沾明
雨考

燈てくうらあぢうけり遠まゝり

桃祖

安永三甲午歲十二月

七

江戸本所三町目
書林西村源六

